# (19)日本国特許庁(JP) (12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

# 実開平5-6961

(43)公開日 平成5年(1993)1月29日

(51)Int.Cl.5

識別記号

庁内整理番号

技術表示箇所

H 0 4 M 1/02 F 9077-5K

E 9077-5K

1/23

A 9077-5K

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号

実願平3-58342

(71)出願人 000000181

FΙ

岩崎通信機株式会社

東京都杉並区久我山1丁目7番41号

(22)出願日 平成3年(1991)6月28日

(72)考案者 樋 爪 潔

東京都杉並区久我山1丁目7番41号 岩崎

通信機株式会社内

(72)考案者 佐 藤 弘

東京都杉並区久我山1丁目7番41号 岩崎

通信機株式会社内

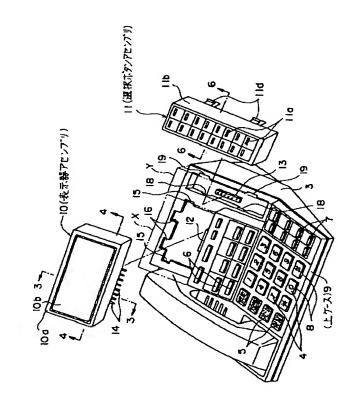
(74)代理人 弁理士 太田 晃弘

# (54)【考案の名称】 ポタン電話機

## (57)【要約】

【目的】 複数種の上ケースや目隠し蓋を用意する必要 がなく、多種類のボタン電話機を生産工程で同時に作り 分けることができ、需要者の後からの要望に容易に対応 できるボタン電話機構造を得るにある。

【構成】 電話番号等を入力するテンキー、外線や内線 を選択する局線選択ボタン、通話状態や入力番号を表示 する表示器を備えたボタン電話機において、同ボタン電 話機の電話機ケース中に組込まれたプリント基板に少な くとも2個のコネクタを組付け、前記電話機ケースとは 別に予め製作する表示器アセンブリの表示器ケース裏面 に、前記コネクタのひとつに着脱可能に係合できる接続 プラグ、並びに、前記電話機ケースの逃げ穴及びロック 溝に着脱可能に係合できる抜止めフック及びロック爪を 一体成形し、前記電話機ケースとは別に予め製作する選 択ボタンアセンブリのユニットケース裏面に、残る前記 コネクタに着脱可能に係合できる接続プラグ、並びに、 前記電話機ケースの引掛溝及び係止溝に着脱可能に係合 できる引掛けフック及び弾性爪を一体成形したことを特 徴とするボタン電話機。



## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 電話番号等を入力するテンキー、外線や 内線を選択する局線選択ボタン、通話状態や入力番号を 表示する表示器を備えたボタン電話機において、同ボタ ン電話機の電話機ケース中に組込まれたプリント基板に 少なくとも2個のコネクタを組付け、前記電話機ケース とは別に予め製作する表示器アセンブリの表示器ケース 裏面に、前記コネクタのひとつに着脱可能に係合できる 接続プラグ、並びに、前記電話機ケースの逃げ穴及びロ ック溝に着脱可能に係合できる抜止めフック及びロック 爪を一体成形し、前記電話機ケースとは別に予め製作す る選択ボタンアセンブリのユニットケース裏面に、残る 前記コネクタに着脱可能に係合できる接続プラグ、並び に、前記電話機ケースの引掛溝及び係止溝に着脱可能に 係合できる引掛けフック及び弾性爪を一体成形したこと を特徴とするボタン電話機。

### 【図面の簡単な説明】

【図1】本考案によるボタン電話機の分解斜視図である。

【図2】同ボタン電話機に用いる表示器アセンブリの裏面図である。

【図3】同ボタン電話機の組立状態の図1の3-3線に沿う断面図である。

【図4】同ボタン電話機の組立状態の図1の4-4線に沿う断面図である。

【図5】同ボタン電話機に用いる選択ボタンアセンブリの裏面図である。

【図6】同ボタン電話機の組立状態の図1の6-6線に

沿う断面図である。

【図7】同ボタン電話機に用いる表示部カバーの裏面図である。

【図8】同ボタン電話機に用いる選択ボタンカバーの裏面図である。

【図9】従来のボタン電話機の斜視図である。

【図10】図9の10-10線に沿う断面図である。

【符号の説明】

3 下ケース

4 テンキー

7 局線選択ボタン

9 上ケース

10 表示器アセンブリ

10b 表示器

10c 抜止めフック

10d ロック爪

10A 表示部カバー

11 選択ボタンアセンブリ

11A 選択ボタンカバー

11c 引掛フック

11d 弹性爪

13 ユニットコネクタ

15 逃げ穴

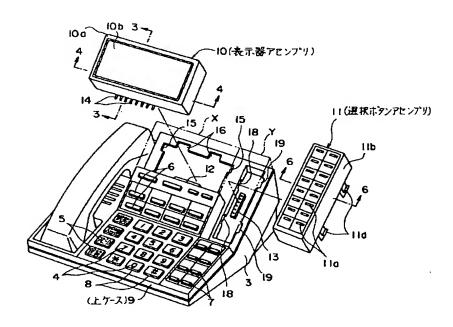
16 ロック溝

17 ユニットプラグ

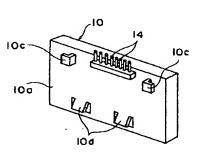
18 引掛溝

19 係止溝

図1]



【図2】



【図3】

